

空から眺める

野瀬 隆平

ミラノの上空に着いたのは朝早くだった。

街の中心にあるドゥオモが見えてきた。徐々に高度を下げてゆく。早朝なので人影がほとんど見あたらない。何度も歩いたことのあるドゥオモ前の広場は、いつもは混み合っていて広場自身がどんなものか、よく見ていなかった。改めて上から眺めると、白と黒の石版を埋め込んだ幾何学的なモザイク紋様があしらわれているのがわかる。

海外旅行はおろか国内旅行もままならない昨今であるが、行きたいところへいつでも直ぐに飛んで行ける特別な方法がある。といっても夢の中での話ではない。目が覚めた状態で実際にこの目で見られるのだ。

もうお気づきかも知れないが、ネットの画面上で展開する景色を目で追っているのである。Google Earth というアプリを使い、立体化を表わす3Dのボタンを押すと、地形や建物などが立体的に浮かび上がってくる。しかも、その風景が指先ひとつで動き出し、あたかも自分が上空を飛んで移動しているような錯覚におちいる。世界中を自由に飛び回っているのと同じ体験ができるのである。しかも、飛行速度や高度も自由自在に操れる。

表示されている画面の下には、正確な位置情報として、緯度と経度が表示されているのは当然として、高度までもが750mとか30mのように示されているのには驚いた。これは、画像の拡大具合から判断して、高度いくらから見ている風景に相当するかを示しているのだ。利用者がどのようなこのソフトを活用するのかを見抜いた、こころ憎い配慮である。

ドゥオモ広場のモザイク模様を見るには、高度250m位が最適のようだ。試しに、どこまで高度を下げられるかやってみた。場所によって異なるが、20m位にまで降りられそうだ。市街地など多くの人が見たいと思う場所は、衛星写真の解像度が拡大にたえるだけ充分高くなっているのである。

さて、ミラノの次はどこへ飛ぼうか。お隣の国、フランスのモンサンミッシェル辺りが良いだろうか。